

# 学習意欲アップ！ ペットボトルを頭に乗せる背浮き、背泳ぎ

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

水泳授業の目的は以下の2つに大別されると聞きます。1つは子どもたちに「生涯にわたって水泳を楽しみたい」と思わせるきっかけをつくること、もう1つは水難事故に遭った際に「自分の命を守る」術を身に付けることです。

本校では、水泳の授業時数も十分確保できることもあり、低学年から「浮いて待つ」技能の育成に取り組んでいます。そして、高学年では泳法の指導を進める中で、クロールや平泳ぎに加えて、背泳ぎも発展的に取り入れています。なお、『小学校学習指導要領解説 体育編』158ページには「学校の実態に応じて背泳ぎを加えて指導することができる」と明記されており、こうした指導は制度的にも裏付けがあります。



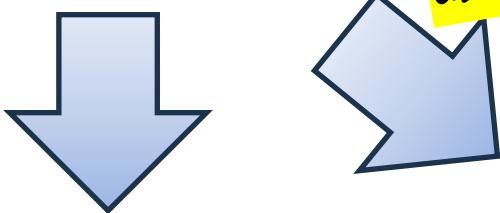
毎年プールに浮かべる日田産の西瓜  
西瓜の浮き具合のように、必要な部分だけを水上に上げる  
ようになってきました。



背泳ぎの指導方法を考えていた際、指導動画の中で、「頭を動かさないこと」が背泳ぎの基本であることを知りました。動画の中で紹介されていた、ペットボトルを頭に乗せて練習する方法に着目し、子どもたちも興味を持ちそうだと感じたことから、実際の授業で背泳ぎや背泳ぎにペットボトルを取り入れてみることにしました。



ペットボトルを落とさないように  
なったら、子どもたちはキックを  
加えて進むことにチャレンジし始  
めました。



ビート板ありのキック

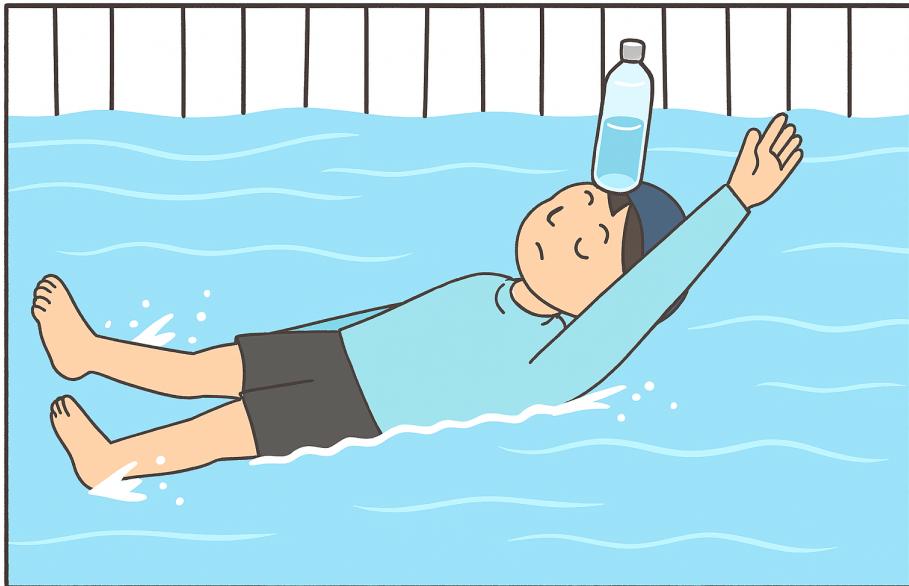


ビート板無しのキック



ペットボトルを頭に乗せ、それが落ちないように背浮きや背泳ぎを行うことで、自然と頭の安定が意識できるようになります。これが子どもたちに大ヒットし、「もっとやりたい！」「落とさずにゴールまで行けた！」「背泳ぎで25m落とさず行けた！」と学習意欲が一気に高まりました。

夏場には、飲み終えた後のペットボトルがたくさん出てきます。そのペットボトルが、子どもたちの「できるようになりたい！」という気持ちに応える、まさに“必然に迫る教具”となつたのです。これからも、身近な素材を生かしながら、子どもたちの学びと意欲を引き出す授業づくりを工夫していきたいと思います。



ペットボトルを落とさず背泳ぎする子も出てきました。



鼻に水が入ることが気になる子がいるため、今年は安価な鼻栓を用意しました。段階的に子どもたちから「もういらない」と言ってくるので、おすすめの教具です。